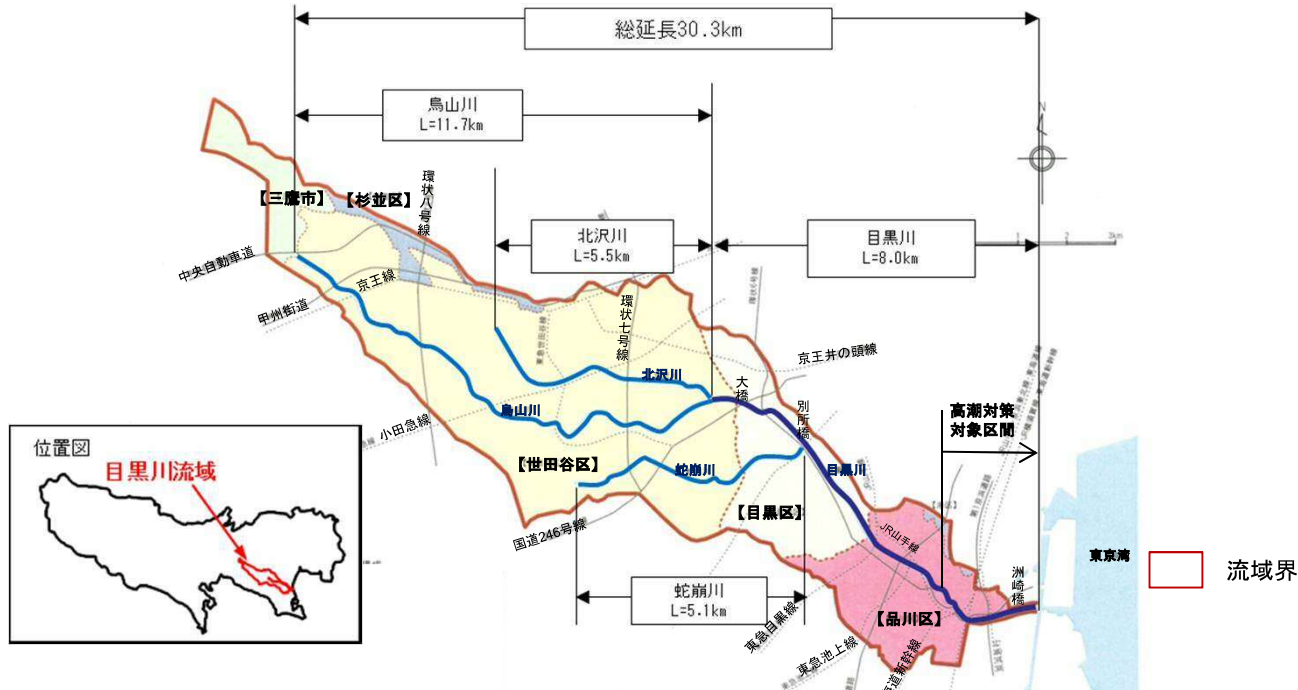


目黒川流域河川整備計画の概要

目黒川流域とは

目黒川流域とは、品川区、目黒区、世田谷区、港区、杉並区、三鷹市の5区1市にまたがった地域の中で、目黒川に雨水が流れ込む45.8km²の範囲を言います。

目黒川は、世田谷区池尻三丁目付近を上流端とし、目黒区と品川区を東流しながら東京湾に注ぐ河川延長8.0kmの二級河川です。支川は、北沢川、烏山川、蛇崩川の3河川があり、目黒川を含めた総延長は30.3kmですが、これらの支川は現在暗渠化され下水道幹線として活用されており、その上部は緑道として整備されています。



目黒川 別所橋上流(洪水区間)



目黒川 洲崎橋下流(高潮区間)



北沢川(暗渠区間:緑道)

流域の特徴

目黒川流域では、現在97%前後が市街化されています。また、昭和54年から平成27年までの37年間で69回の水害に見舞われ、浸水被害、特に内水被害は毎年のように繰り返されています。

河川の水量が十分でないことから、清流復活事業により落合水再生センターで高度処理した再生水(日量30,200m³)を放流しています。また、目黒川沿いでは桜並木があり、開花時期には目黒川さくらまつりが開催されています。四季を通して、各種イベントが開催されており、知名度の高い河川となっています。



高度処理した再生水



目黒川の桜

河川整備の目標

目黒川流域では、水害から都民の命と暮らしを守るとともに、良好な河川空間を創出に向け取り組んでまいります。そのため、安全な川づくりと、河川環境の向上と保全に努めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、目黒川、支川の北沢川、烏山川、蛇崩川の法定河川全区間と調節池等の河川管理施設とします。

計画対象期間は概ね30年間とします。

河川整備計画の主なポイント

治水

・・・洪水による水害の防止又は軽減

＜洪水対策＞

1時間あたり50mm規模の降雨に対応できる河道に加え、洪水を貯める調節池を整備します。河川への流出を抑制する流域対策を含めて、1時間あたり75mmの降雨に対応することも目標とします。



護岸(谷山橋上流)



洪水貯留施設(荏原調節池)

環境

・・・河川環境の整備と保全

護岸緑化や管理用通路等への植栽を実施した箇所において、目黒川沿いの景観を楽しみながら散策等ができるよう、河川管理や治水安全性との整合を図りながら、その保全に努めます。

河床整備の実施に当たっては、治水上支障のない範囲で動植物などの河川の生態系に配慮した整備に努めます。



護岸の緑化整備例
(緑橋地点)



環境に配慮した河床整備例
(船入場調節池地点)